

本市のインフラ整備等について

菊地 忠久



〔質問〕令和5年度は本格的に工事に着手することになる(仮称)白石中央スマートインターチェンジとその周辺整備にかける思いを伺う。

〔答弁〕【市長】スマートインターチェンジを活用したまちづくりで成功している実例も多く、スマートインターチェンジの効果も最大限発揮することが、本市のビッグチャンスになると考えている。併せて国道4号の4車線化は、スマートインターチェンジ周辺整備の効果を何倍にもすると考える。本市の立地条件、高速交通網による利便性の良さ、

高速道路と国道4号のダブルネットワークの整備を行なっていくことは結果として「選ばれるまち白石」になると確信している。好立地を生かした新たな工業団地を造成し、企業誘致を加速させることは、雇用の増、固定資産税や法人市民税などの増収により、政策として還元していく好循環を実現していきたい。

〔質問〕住環境が充実していることは大きなセールスポイントとなり、特に安価で優良な宅地の確保に向けた宅地整備は極めて重要な事業であると考えているが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】宅地整備や住む場所の確保は大変重要であると考えている。一方、

市中心部においては空き地や空き家が増加し、空洞化が進んでいる状況にある。空き地の有効活用や民間活力による整備の可能性を協議していきたい。

〔質問〕(仮称)白石中央スマートインターチェンジと市街地中心部のアクセス向上のため、新たな道路の整備が必要と考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】スマートインターチェンジから中心地へのアクセス向上は、道の駅にアクセスされた方の市中心部への誘導や、工業団地の企業誘致に関しても、大変重要であると考えている。そのため、工業団地内の市道を先行して整備を進めているが、並行してスマートインターチェンジから白石駅を結ぶ新たな道路整備が可能か検討している。

その他の質問

◎学校連絡アプリについて

認知症施策・高齢者支援等について

佐藤 秀行



〔質問〕本市の現状を踏まえて、認知症に対する認識、理解について伺う。

〔答弁〕【市長】認知症は、日頃の健康管理や適度な運動、生活リズムを整えることにより脳の老化を防ぎ、認知症を防ぐことにつながる。認知症は身近にあり、誰もが関わる可能性がある病気であることから、今後とも介護予防事業と合わせて、認知症予防事業および理解促進のための普及啓発事業の推進に努める。

〔質問〕高齢者補聴器購入費用助成事業について伺う。

〔答弁〕【市長】高齢者の

聞き取る機能の衰えについては全国的な問題であることから、国・県の動向を注視するとともに、必要に応じ、国の公的補助として制度化いただけたらよい働きかけをしていく。

◎旧白石市老人福祉センターについて

〔質問〕解体の工期予定、解体後の跡地活用について伺う。

〔答弁〕【長寿課長】令和5年度中の完了を予定している。今後、関係部署と協議の上、早めに進める。跡地活用については現時点で未定である。

◎みやぎ蔵王白石スキー場について

〔質問〕令和5年度に予定しているリフト修繕工事の詳細について伺う。

〔答弁〕【商工観光課長】

利用客の安心・安全のため、クワッドリフト、ファミリーリフトのリフトロープのたるみが大きくなっていることから、切り詰めるを行い、再度ロープを張り直す工事である。

〔質問〕第2リフトは、平成11年にペアリフトとして設置されてから24年が経過している。このリフトの架け替えについて、改めて市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】建設から24年が経過し、部品の製造中止などにより、今後のメンテナンスが難しくなることが予想され、架け替え工事が必要なのは十分承知している。工事には多額の費用を要することから、市単費での実施は難しい状況である。これまでのスキー場の整備に活用してきた辺地対策事業債について、再度県と協議を行なっていきたい。